九州地区商業高等学校長協会主催
第６６回九州地区高等学校ワープロ競技大会　　令和７年７月２２日（火）
ワープロ速度問題〔制限時間１０分〕　　於：宮崎県立宮崎商業高等学校

今から約１００年前、イギリスの経済学者ケインズは２０３０年 30
には、技術の進歩によって生産性が向上し、人々は週１５時間程度 60
の労働をすれば済むようになるだろうと未来を予測した。 87
ケインズが見た未来まで５年と迫った２０２５年の今日、技術は 117
遥かに進み生産性も格段に向上したが、人々は長時間労働に疲れ、 147
時間に追われる日々を過ごしている。しかもその結果が、豊かな生 177
活をもたらしてくれる実感が全くない。それどころか経済活動に寄 207
与するほど、地球環境はどんどん破壊されているのではないかとい 237
う絶望的な現実に直面している。これはまさに近代社会における巨 267
大なパラドックスである。 280
最近は世界中の人々が、持続可能な開発目標であるＳＤＧｓ達成 310
のためにそれぞれの目標に向かって、企業を中心にひたすら取り組 340
んでいる。しかし、マイボトルを持ち歩くことやハイブリッドカー 370
に乗ることが、地球温暖化対策に貢献しているという精神的な免罪 400
符となって、真に必要とされる実効性のあるアクションを起こさな 430
くなってきているのではないか。週末のヨガ教室に行く時間を捻出 460
するためにスマホで動画を倍速で見て、地球に優しいオーガニック 490
な食事のために、食材を遠方から航空便で取り寄せているようでは 520
本末転倒だ。このように目の前のことを優先するのも、忙しすぎる 550
せいだ。隙間時間でしか趣味を持てないから、ＳＮＳのように目の 580
前の快楽を追い求めることになるのだ。 599
日本は以前より労働時間が長すぎるし、労働の対価として見合っ 629
た賃金が支払われていない。日本人は不満があるときに、個人でな 659
んとかしようとする傾向がある。収入が足りなければ資格取得や副 689
業をしたり、プライベートの時間が足りなければ効率化や時短の努 719
力で捻出したりと、個人主義的な豊かさを求めてしまう。他者に依 749
存しない自己責任社会を許容するので、社会の在り方を変えなけれ 779
ば根本的な問題は解決しない。本当に得るべきもの、大切にすべき 809
ことは何なのか、どうなれば私たちは幸せを実感できるのかを皆で 839
考え議論する必要がある。 852

(852)

社会の在り方を変えるには、まず社会のシステムを知る必要があ 882
る。例えば、農家が機械を導入すると農作業は効率化する。資本主 912
義では隣の農家が新型のトラクターを購入すると、生産性や価格競 942
争で敗れてしまうため、旧型は廃棄され新型への買い替えが進む。 972
そうして技術革新の回転が速まる。 989

資本主義は生産を急ぐ経済で、生産設備に投資して出来るだけ早 1019
くモノを作り、流通に乗せ資金に換える。そうして回収した資金を 1049
次の投資に使う。資金を早く回すことに成功した者が社会の勝者に 1079
なる。かくして回転のプロセスを速めていくことが、全てにおいて 1109
是とされてきた。マルクスは、資本主義のエコノミーとは時間のエ 1139
コノミーであると言った。無駄を排除して時間を生み出し、その時 1169
間をさらなる資本の増殖に使う。時間を圧縮したら次は空間を圧縮 1199
し、通信や移動手段を革新し、生産拠点や市場を拡大していく。 1229

もちろん、マルクスが生きたのは１９世紀であるから、通信手段 1259
は手紙か電報、移動手段は蒸気機関車や蒸気船が主である。そうし 1289
た技術が発展した先に、今日のような情報化社会やグローバル化が 1319
あることを見抜いていた。マルクスの予測が現実となった今、私た 1349
ちは資本の回転をどれだけ速くしても、少しも幸せになれないこと 1379
に気が付いた。技術革新により半分の時間で仕事ができるようにな 1409
れば、半分の時間は余暇にあてられるようになるはずだとケインズ 1439
は予測したが、実際にはもっと忙しくなった。それは量が効率化を 1469
上回って増大しているからだ。 1484

なぜ効率化が進んだのにますます忙しくなってしまうのか。理由 1514
はシンプルで、資本の成長のために人間の欲望を無限にしたからで 1544
ある。ケインズが見誤ったのもここで、彼はあらゆるモノが大量に 1574
安価で作れるようになり、ある程度のモノが行き渡れば、需要はど 1604
こかで飽和すると思っていた。しかし、地位財や広告によって刺激 1634
された人々の欲望は尽きることがなく、例えば国産車だって昔の外 1664
国車よりずっと性能がいいにも関わらず、満足できずに外国車を求 1694
めてしまう。その結果ローンを組んで必死に働くことになった。 1724

(1724)

結局のところ我々は、無限の消費、無限の成長を要求されるばか 1754
りで、時間を奪われ続けている。それにどんどん生活のテンポが加 1784
速していき、ストレスフルでメンタルヘルスを蝕んでしまう。だと 1814
すればこの事態を前にして、資本主義にある種の制限を掛けなけれ 1844
ばいけないのではないか。加速を強いているシステムには、皆でブ 1874
レーキを掛ける必要がある。１時間ヨガでマインドフルネスをして 1904
も、その間に２０件も未読メールが溜まったら意味がないからだ。 1934
加速する社会にブレーキを掛けると言っても、皆で遅いインターネ 1964
ットを使おうというのではない。不便を強いられる世界は誰も望ま 1994
ないし共感を得られない。 2007

これからは一つの提案として、キャップ制を導入してはどうだろ 2037
うか。まず社会全体で労働時間を減らしていく。週休３日制をルー 2067
ル化し、２４時間営業や日曜祝日の営業も減らしていくことを目指 2097
していく。現在でも自主的に週休３日制を採用している企業はある 2127
が、競争原理がそのままだと自分達だけが休むのは勇気がいる。 2157

年末年始やお盆休みなどは皆も同じだから休養しやすいわけで、 2187
社会的にルール化することが大切である。商業店舗の２４時間営業 2217
や日曜祝日の営業も日本では当たり前になっているが、ヨーロッパ 2247
では逆に深夜や週末に開いている方が珍しい。それで生産性が下が 2277
ったという話も聞かないし、労働者の幸福度や満足度は休暇が多い 2307
ほど上がっているなど、ポジティブな調査結果が出ている。 2335

もう一つは年収に上限を設ける方法がある。例えばどんなに稼い 2365
でも、１億円以上は収入にできないというルールを作る。そうすれ 2395
ば１億円稼いでなお働こうとは思わないだろうし、投資で資産を際 2425
限なく増やそうとする試みも無駄になる。この様にルールとして労 2455
働時間を短縮し、かつ一定以上は稼げないとなると、人々は新たに 2485
生まれた時間を家族や友人と過ごしたり、ボランティアをしたり趣 2515
味など好きなことをして、人生を深めることに目を向けるだろう。 2545
その結果、労働のストレスから解放され、過労で倒れることもなく 2575
本来の人間らしい人生を取り戻せることになる。 2598

(2598)

２０世紀は労働者が使役者に、もっと働くから金をくれと要求する時代だった。しかし、２１世紀は皆で休みが取れるようにしていこうと提案し、議論していく時代である。もちろん企業は収益を上げているからこそ雇用を維持できている。特にグローバルな市場でしのぎを削っている大企業は、日本だけで完結する話ではないかもしれない。国が国際社会に、資本主義の加速になんらかの歯止めをと訴えることも必要だろう。

それでもこれが全くあり得ない話でもないのは、私たちは４年前にこの試みを実現しているからだ。新型コロナの感染拡大に際し、世界各国はそれぞれ独自に経済活動に制限を掛け、資本主義を減速させた。海外でのロックダウンなど、輸出を中心に多くのダメージを受けたし、ひずみも生じたがやってやれないことはなかった。いずれ同じことを、気候変動を前にしても考えざるを得なくなる日が来るだろう。

日本は、資本主義にキャップをかける試みで先行して、世界をリードする国であってほしい。それによって世界から真に魅力的な国と映るだろう。日本の価値はＧＤＰではない。教育、安全、文化、食、自然、水、医療など日本の持つ魅力はＧＤＰには加味されていない。今、私たちが不幸なのはＧＤＰという数値、金銭的価値にとらわれるあまり、こうした数値化できない素晴らしい面に目が向いていないことだ。資本主義にキャップをかけることで、私たちが幸せに過ごすようになれば、日本は脱成長のモデルを世界に示すことができる。それは資本主義を加速させ分断・対立・攻防を生むよりも、ずっと素敵なことだ。